



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER.2-18-12 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

- 国際会長主題 “On the Move!!” 「さあ 動こう!!」
- アジア会長主題 “With Pride and Pleasure” 「誇りと喜びを持って」
- 東日本区理事主題 「みんなで力を合わせて、1・2・3」
- あずさ部部長主題 「入会時の“ときめき”と多くの経験をワイズのために！」
- 東京西クラブ会長主題 「いつも自然体で！ 楽しい例会参加を」

2019年12月号

NO 519

天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」と話し合った。
ルカによる福音書 2 : 15

「会員増強」への思い

神谷幸男

当クラブの積年の最大課題は、新人特に40～50歳代を入会させられなければ、わがクラブは、10年後には数人しか残っていないという危機感から、「会員増強」であるにもかかわらず一向に結果が現れない(現在、中高年でも元気に活躍できる時代ですが)。

言い訳は、高齢者ばかりでCS活動等社会貢献事業が行えない、入会を誘う相手は自分と同世代の高齢者ばかり、入会者の心を射止める魅力がクラブに見いだせない、等々と自己防御に明け暮れている始末。

新人を勧誘するにはクラブの魅力アピールするのが一番で、一般的魅力としては、社会奉仕ができること、交際範囲が広がること、社会的研鑽ができること、居場所ができること、などが挙げられる。しかし最大の魅力とは、

「隣人愛とそれに基づく奉仕の実践を行う世界平和志向の国際団体に属すること」ではないだろうか。私事ながら、ワイズメンズクラブなるものを全く知らなかったときに、畏兄山田利三郎さんがロースターを持って訪れ、ワイズメンズクラブとはこういう団体だよ、と誘いを受け、即刻入会の意向を表明した。しかしながらわが身の努力と押しの足りなさを反省しきりだが、一方WHOを除いては、見える地域活動を行えないわがクラブにあっては押しの迫力がイマイチであるばかりでなく、前記最大の魅力についての理解がなかなか得られないもどかしさもある。今一度「Change! 2020 ニュース」を読み返してノウハウを吸収するなど、会員増強活動へのエネルギーを蓄積させたい。

樋口一葉の世界を歩く WHOウォーキングのご案内



一葉が通った旧伊勢屋質店

24年の生涯ながら明治を代表する作家で今なお愛されている樋口一葉の世界を歩きます。
期日:12月21日(第3土曜日)
集合:JR御茶ノ水駅 西口
コース:御茶ノ水駅-東大赤門-桜木の宿-菊坂一葉旧居跡-旧伊勢屋質店-終焉の地-下谷竜泉寺旧居跡-一葉記念館-鷲神社-吉原大門
解散:メトロ浅草駅 15:00
携行品:雨具、昼食、飲料持参
会費:300円。初回の方は名札代200円、入館300円

クラブ役員

- 会長 篠原 文恵
- 副会長 大野 貞次
- 書記 神谷 幸男
- 会計 高嶋美知子
- 担当主事 木川 拓

| 11月の記録 | | ニコニコ | 0円 |
|---------|-----|-------------|----------|
| 在籍者数 | 14人 | メネット | 1人 |
| (内功労会員) | 1人 | クラブファンド(当月) | 5,193円 |
| 出席者数 | 10人 | クラブファンド(残高) | 161,780円 |
| メモット | 0人 | ホテ校ファンド(当月) | 7,941円 |
| メーキャップ | 2人 | ホテ校ファンド(残高) | 39,170円 |
| 出席率 | 86% | ゲスト | 6人 |
| 前月修正 | - | 出席者合計 | 29人 |
| | | WHO参加者 | 25人 |

12月クリスマス例会のご案内

今月の強調テーマ：EMC/M

今年もあと20数日となりました。何かと忙しい毎日を過ごされておられるかと思えます。

12月例会は恒例の親睦例会です。お仲間との親睦を楽しみましょう。ビジター。ゲストの方も歓迎です。

日時：12月19日（木）18：30～21：00

会場：かごの屋杉並梅里店 杉並区梅里 2-36-11

会費：5,000円 Tel.03-5378-7747

担当：C班（石井、神谷、河原崎、木川）



受付 石井 元子
河原崎和美

司会 神谷 幸男
篠原 会長
一 同

開会宣言
ワイズソング（いざ立て）
聖書朗読・感謝
あいさつとゲスト紹介
会食

神谷 幸男
篠原 会長

所感・近況報告・ニコニコ
ハッピーバースデー

全 員

諸報告
YMCA 報告
閉会宣言

会長 他
担当主事 木川 拓
篠原 会長

HAPPY BIRTHDAY

4日 神谷雅子 15日 吉田廸子
18日 村野絢子

-11月事務会記録-

日時：11月28日（木）

19：00～20：50

会場：ウエルファーム杉並

出席者：大野、神谷、高嶋、村野、
吉田

<報告事項>

①11月21日現在の収支状況が報告され、原案通り承認された。

<会計報告>

①11月21日現在の収支状況が報告され、原案通り承認された。

<協議事項 = 例会関係 = >

▼12月例会

（クリスマス特別例会）

日時：2019年12月19日（木）

18：45～21：00

会場：阿佐ヶ谷「かごの屋」

内容：卓話なし。各自近況報告
所感ほか懇談、出席者は未確定であるが、14人で発注する。

▼1月例会

卓話者：井上光夫さん

「米国のプライベートジェット機事情」（仮題）

食事：これまでと違う店に試しに発注してみる。

▼2月TOF例会

卓話者：利根川恵子さん（川越クラブ）

「同時通訳泣き笑い」（仮題）

▼3月合同例会（恒例・東京世田谷クラブとの合同例会）

卓話者：黒田知代さん（所沢クラブ）

「フードバンク活動報告」（仮）

<協議事項 = 例会関係以外 >

1月号ブリテン編集会議

<確認事項>

①あずさ部部大会出席者の確認：

②あずさ部部費等の納付：

部費、CS/ASF、YVLFは12月納付、その他は金額未定のため1月事務会にて審議後に納付。

④12月の事務会（第2例会）は12月26日に行う。

（書記・神谷幸男）

-東新部部会参加-

11月3日、歩行者天国で賑わう銀座ライオンでの東新部部会に出掛けました。初めてのあずさ部以外の部大会参加に不安がありましたが、DBC 東京世田谷クラブがホストとのことで出席。

各種報告・表彰のあと「なぜ、

うたごえサロンは継続発展しているの？」と題したプログラムが始まりました。すずらん会から始まった「うたごえサロン」は現在11会場にまで活動を広げ地域の活性化に役立っているそうです。小川圭一さんの絶妙な司会で、銀座ライオン in 「ミニすずらん会」で合唱、歌に合わせて隣同士肩を抱き合う場面は理屈抜きの親愛の行動と思いました。

印象に残ったことは、朝倉正昭・東京世田谷クラブ会長からの報告。現在同クラブでは、会費や例会出席を義務化せずワイズの活動に触れていただくために参加とブリテン講読を目的として体験しながら理解してもらう「友の会」を始められた由、敷居が高いと二の足を踏んでいる方には素晴らしい機会と共感しました。

最後に東新部部歌を朗々と歌われる皆さんに圧倒されましたが、あずさ部にも浅羽俊一郎さんが作詞作曲なさった素晴らしい歌があります。もう少し若ければ覚えも早いのに、歌声を聞きながら反省もした午後のひとときでした。（篠原文恵）

晴信・廣瀬健・宮岡宏美（甲府21）、長谷川あや子（東京八王子）、小原史奈子・藤江喜美子（東京たんぼぼ）、田上正（熊本むさし）、太田勝人（東京町田スマイリング）、＜ゲスト＞池谷泉、石井真紀子、大塚恭平、川澄洋子、恒石浩志、中澤照子、＜メーカー＞神崎（YMCA 会議）、篠原（10月事務会）

東京-フロストバレーパートナーシップ感謝会参加記

東京-フロストバレーYMCA パートナーシップ 40 周年記念感謝会が 10 月 19 日（土）に東陽町センターで開催されました。私は同パートナーシップの関係者でもなく、同キャンプの参加者でないので当初参加するつもりはなかったのですが、本間立夫さん恵美子さんご夫妻がご出席になる会であるとのことを後で知って参加した次第です（感謝会の一部始終は他に報告されているので省略する）。

本間さんご夫妻にはロビーでご挨拶。ニューヨークに赴任された当初のスタッフの方々やキャンパーとして関わった方々の思い出話を拝聴し、今日の盛んな活動があるのはこれらの人々とのアイディアと信念と力の結晶であると思いました。

また、同じテーブルについた初老の男性と短い会話を交わしましたが、彼は仕事の関係で永くニューヨークに住んでいて、この日本間さんに会うために日本に来たと言っていました。彼のご息子が小学生の時（今は 40 歳代でやはりニューヨークで仕事をしている由）に、キャンプで本間さんに大変お世話になったとのことでした。

こういう方がおられることは本間さんの貢献及び影響力は偉大であると改めて思いました。

（神谷幸男）



戦場取材に赴く際に携帯した防毒マスクを掲げて話す米長さん



取材の際着用した民族衣装を纏って話す米長さん

甲府から卓話者を招いて —11月例会報告—

11月の卓話は甲府21ワイズメンズクラブ米長晴信さんから「コミュニケーションの心得・極意」というテーマでお話を伺いました。

米長さんは、この日カタールから帰国。羽田空港から直接会場へ駆けつけて下さいました。

日々の生活に大変重要なテーマでもありますので、大勢の方々にお越しいただき、熱気のある雰囲気の中で始まりました。プリントで事前に話の流れをお伝え頂いておりましたが、これも大事な準備であることが、話の中でわかりました。発信する心得の1つ、スピーチは生き物であるということ。

具体例として、県民体育大会の式典時でのご自身の挨拶の経験を挙げられた。フロアーに座っている選手たちの早く終われの雰囲気の中で、観客席の父兄たちが目に入った。最初に出演した子供たちの父兄だと年格好からわかり、その子供たちの演舞に感動したことを素直に褒めると、一気に聴衆の関心が集まったということでした。聞く人々への配慮が大切というお話でした。

最後に米長さんが取材なさった2003年のイラク・リポートの取材ビデオを解説付きで拝見させていただきました。フセインの地下巨大宮殿へ日本のカメラと

して初めて入り撮影したとのこと、豪華な城の中は、破壊され、瓦礫の山でした。イラクにはクウェートで準備して入るそうで、ビザ取得や、ガスマスクの装置の練習も大変で、実際にマスクの装置方を実演して下さいました。

取材も大変で、危険な体験もなさりながら取材をなさるとき、最も大切なのはコミュニケーションだそうです。

現地の人との交渉で、情報の裏を取るために、情報源の人とどうつながるか、迷惑がかからないか、人間関係をどう作るか、1対1で話すことが出来るか。表情を見ること。大切なのは人。相手にいかに信用してもらえるか。相手の民族衣装を着て取材する姿や、数人の武装した相手に近寄ろうとしている姿に報道現場の緊張感を感じました。

スピーチをする心得を学び、お互いの信頼関係を築くことが最重要と言う事、1対1で話せること、大切にしたいと思いました。お話には出ませんでした。聞きやすい発声や話し方、さすが報道のプロ、トレーニングでしょうか。（鳥越成代）

出席者＜メンバー＞石井、大野、神谷、河原崎、木川、高嶋、鳥越、本川、村野、吉田、＜メネット＞神谷、＜ビジター＞浅羽俊一郎（東京山手）、板村哲也（東京武蔵野）、江原修一・長津徹・御園生好子（東京サンライズ）、米長

晩秋の雨の荻窪を歩く

WHO12月例会に参加して

藤井寛敏（東京江東クラブ）

「荻窪の歴史的建造物」というプログラムに惹かれ、多分15年ぶりに学生時代の友人とWHOに参加した。あいにくの雨であったが女性中心の25人が荻窪駅に集合、駅北口から出発。まずは太宰治が住んだ高級下宿、碧雲荘跡地へ（今は杉並区施設ウエルファームに）。



世界的な運動となった原水爆禁止運動は、杉並区の主婦の勉強会から始まった。そのことを記念するオーロラの碑。この日は折しも、原水爆廃絶を訴えるローマ教皇来日の日であった

前日『斜陽』をキンドルで再読(?)し荻窪駅周辺の土地勘を養った。天沼弁天池公園、天沼もえぎ公園（地面に広島に原爆が投下された8時15分を指した時計が描かれていた）、天沼八幡神社など緑豊かな天沼地区を通り荻窪駅へ。雨のため公園での昼食はあきらめてルミネで。午後は駅の南を歩く。青梅街道沿いのにぎやかさを感じさせる細い道に店舗、住宅が密集していた北口周辺に比べ、善福寺川左岸の段丘を整備した広い道路の住宅街。杉並体育館前の原水爆禁止運動の発祥の記念のオーロラの碑、昭和初期の高級アパートの西郊ロジングを観て大田黒公園へ。音楽評論家であった太田黒元雄氏寄贈の居宅と3,000坪近い敷地はきれいに庭園として整備されていた。そして角川庭園を経てお目当ての3回

の首相を務めた近衛文麿氏の私邸の荻外荘へ。もはや開戦不可避の昭和16年10月の首脳陣の会議の後で近衛氏は首相を辞任し、東条英機陸相が首相になった。会議の様子の写真は見ていたが、内部に入れると思っていたが外からだけしか見られなかった。その後（東京西クラブのメンバーだった故木原洸君（同行の友とも共通の友人だった）の家で奥様の邦江さんにご挨拶をして、すぐそばの与

謝野鉄幹・晶子記念公園で彼らの情熱的な14歌（碑）に触れてすべての予定を終了した。大満足であった。隣の区に住んでいても初めて訪れた所ばかりで杉並区はこれらの施設をしっかりと管理していると思った。このようなプログラムを20年以上も続けている吉田明弘さんらサポーターの皆さんに心からのねぎらいと感謝の心を送りたい。

ワイズ関係参加者は、石井、吉田（東京西）、中澤（東京たんぼ）、樋口（東京グリーン）、藤井（東京江東）、田上（熊本むさし）、関（石巻広域OB）

刺激的

毎月15日に発信

Change! 2022

EMCニュース

ワイズドットコムで配信されます

YMCA Today

■東京 YMCA 国際ホテル専門学校 の2年生、114人は12月10日～20日にかけて海外ホテル・観光研修に旅立ちます。ホテル発祥の地であるヨーロッパ、ロンドン、パリ、ローマの3都市をめぐり、西洋の歴史や文化を肌で感じ、本物サービスを通じてまた一歩の成長を願っています。

■東京 YMCA では台風15号、19号の被災地支援として、引き続き募金活動を行っています。千曲川の決壊により大きな被害を受けた長野市に職員3人を派遣し、社会福祉法人賛育会と協力して災害ボランティアセンターを運営。また11月22日～24日に長野市北部でボランティアワークキャンプを実施し、医療福祉専門学校と社会体育・保育専門学校の学生、山手学舎生、ユースボランティアリーダー、スタッフの計15人が味噌醸造場や個人宅の泥かき作業を行いました。今後国内のYMCAが協力し、ボランティアワークキャンプ、リフレッシュキャンプ、子ども達の心のケア等の支援活動も進めていきます。

■11月14日、東京YWCA、在日本韓国YMCA、東京YMCAの合同で「YMCA・YWCA 合同祈禱週礼拝」が在日本韓国YMCAにて開催。約60人が出席しました。今年のテーマ「ジェンダー平等にむけて、若者が権力構造を変革する」を渡邊さゆり牧師（日本バプテスト神学校教務主任・彰栄学園宗務主任）に説教をいただきました。

(担当主事 木川 拓)

東京YMCAのHPで、WHOの毎月の予告と報告を写真入りで見ることが出来ます。



http://tokyo.ymca.or.jp/community/suginami_news/

☆☆ インタビュー ☆75☆ 加藤 利榮さんに聴く

横浜とつかクラブ

* * *



—実は、ベテランのインタビューは苦手です。材料がありすぎて。加藤さんはワイズ長いですね。

「1959年に横浜クラブに入会しました。今年9月、ワイズ還暦の祝いをしてもらいました」

—それだけ長く、情熱を維持された理由は。

「気がついたらこんなに長くなっていました。内助の功もさることながら、今後ともご迷惑をお掛けしながら、終わるまでご厄介になります」

—最初の横浜クラブには、どなたに、どう誘われましたのですか。

「かねて仕事上の知り合いだった横浜クラブの高杉治興さんから、どうだい、こんな活動してみないか…と、誘われました」

—当時の横浜クラブは、日本の玄関口、ヨコハマを代表する、一味違っていかにも横浜らしいハイカラなメンバーがおられたそうですね。

「日本のスーパーマーケットの先駆、元町の Union を立ち上げた高取寿男さん（日本区 11・12 代理事）、後年、横浜市南区長になった植村慶富さん、松下通信機でデミング賞受賞の萩原義明さん（現、大阪高槻クラブ）、日本最初の軽自動車スバル 360 のデザイン・設計をした佐々木達三さん、明治 23 年創業の横浜植木の渡辺広太郎さん、松喜屋デパートの社長の酒井輝義さんなど、横浜に誇りを持つ方が多かったですね」

—すぐに馴染めましたか。

「入会后 10 年近いスリーブ期間がありましたが、その後、会計を担当して…と言われたのがきっかけとなって、ほどなくして会長になることになりました」

—ご自身は裁判所に務めておられた。

「公務員で、入会した時は検察庁にいましたが、ほどなく法務省に転勤しました」

—ハマッ子ですよ。

「生まれは、富山県の東砺波郡（現・砺波市）ですが、父の土木の仕事の関係で横浜市本牧へ出てきて、大鳥小学校に入学、以来今日に至るまでということです」

—加藤さんの、あわてず、ゆったりとした語り口は、説得力があります。子ども時代からそうですか。

「ゆっくりとして、下手な語り口を悩み、直せないままに今日に至っています」

—えーっ。議論しても、いつも加藤さんのところで、うまく話が収まって感心していますよ。1979年 BF 代表になられましたね。

「1979年10月に1か月、米国とカナダにメネット同伴で派遣されましたが、あたかも南東部部長も仰せつかっていた時でした。現地の区・部の大会からクラブ訪問と、物凄い移動距離とホームステイで大変に忙しい1か月間でした。英語は、高杉さんからの特訓を受け、スピーチのサンプルを作ってもらいました」

—1991-1992年には第37代日本区理事になられました。

「田中真さん（東京）、杉本恭之助さん（横浜）、高杉さん（横浜）に有無を言わず推薦されました。前年、定年退職していましたが、時間はとれましたが、『加藤は、小原武夫書記（東京世田谷）と杉本恭之助会計（横浜）に支えられて務まった…』とよく言われました」

—この年度は、日帰りの日本区大会や、役員研修会を前年度に行う

など、印象に残っています。1994年には、横浜とつかクラブをつくられて、チャーターメンバーになられた。

「私の住まいの近くに、湘南とつか YMCA を開設するということで、背水の陣で、私を含めて5人が移籍して、チャーターに漕ぎつけました」

—加藤さんは、一度始めると長続きしますね。ブリテン編集も、ご自宅での納涼例会など。

「納涼例会は家人の協力とクラブの後押しもあって 22 年続きました。ブリテンは、横浜クラブ時代には、理事を務めた期間を除き 20 年余り。初めの頃は、自身でガリを切って謄写印刷もしていました。横浜とつかクラブに移ってからは 20 年以上、今も原稿集めから編集までを担当しています」

—ワイズ以外の楽しみは。

「洋楽鑑賞」。これは、学生時代の SP 以来です。最近、他のクラブに同行の士がいるのを発見し、喜んでます。そのほか 40 歳くらいまでは山歩きで、田部重治の紀行本をリュックに、中学時代からの友人で、横浜、横浜とつかで一緒だった能條道夫さん（故人）と 2 人で、北アルプス・後立山・谷川連峰など、冬山と岩場を除いて出掛けていました」

—ワイズ、YMCA に加わって良かったことは。

「滅法、仲間が増えたこと。それも海外まで…と、国内外の旅行が、今となれば、いい思い出となっています」

—今のワイズに望まれることは。

「メンバーが今の倍になること。老いも若きも楽しく奉仕が出来るようになることですね」

—座右の銘といったものをお持ちですか。

「自分自身の持っている欠点・欠陥・弱点を武器に、です」

—有難うございました。

（吉田明弘）

私の大切な物① 村野絢子

ミキサーとオーブン

今の生活で最も使用頻度の高いのは業務用のミキサー「ケンミックス」とミーレの電気オーブンです。今朝は予約してくださった方に特大サイズのシフォンケーキを、ホイップクリームを添えてお届けしました。今夜はイチジクとレーズン入りのケーキとブラウニーを焼きました。今のミキサーがない時はボールを固定しハンドミキサーで攪拌していました。

その前は家族の分のお料理にお鍋の中でも使用できるパーミックスを重宝して使用していました。結婚当初は部屋の片隅の流しと一口ガスコンロで調理していたので、オーブンどころではなく、フライパンとお鍋でままごとのように楽しんで何でも作っていました。

2年後、義母が亡くなり、親子3人から義父と夫の弟たちと妹の7人家族の食事担当となり、1階の台所で調理をし、弟の友人達も加わることもあり、それはそれは賑やかな食事となりました。

50年余り前の事です。当時は御用聞きのおじさん・肉屋のお兄さん・魚屋・酒屋・豆腐屋・和菓子屋が入れ替わり寄ってくれるのでなんとかなったのだと思います。

昼食は、弟たちには学校の給食（教師）と会社の食堂で食べてもらい、父と妹と夫のお弁当を作っていました。弟妹も結婚して家族が減り、子どもが増えて、コンビニやスーパーが出来、暮らしがすっかり変わりました。

ガスオーブンが大型の電気オーブン BOSCH に、そして今の MIERE（夫が東芝なのでキッチン担当で詳しく、両方ともドイツ製）となったのです。普段の肉魚料理から、おやつ・誕生日のケーキ・お隣の奥村土牛先生のお好きな特大プリン、教会の集まりのおやつ…と作る場面も増え、ミキサーとオーブンは大活躍をしているのです。



お医者様へは若作りで 篠原文恵

11月の半ばに股関節置換手術で入院し皆様にはご迷惑をおかけしました。例会卓話では甲府21クラブの米長晴信さんのコミュニケーションの極意や2003年のイラク・レポートの取材体験談等があると聞いていましたが、その頃はベッドで手術後の嘔吐に苦しんでいました。幸い病院の手厚い看護により3週間で退院。

執刀医の先生には週に1度しかお目にかかれませんでした。全てのデータが相互にやり取りされ、リハビリの成績まで筒抜けの様子で、総回診でお会いした時には頭にカーラーを巻いた状態でベッドに座っていたので、「テレビドラマじゃないから、正座はしなくても良いですよ」「今日のヘアスタイルは決まっていますね!」と言われる始末。

穴があつたら入りたい気分でしたが、男性看護師の多い事（勿論初めての経験で、着替えを手伝

ってもらうときには少し抵抗が…）や、献立を選べることなど新しい体験がありました。

さて、肝心のタイトルの「若作りで…」です。この夏に突然片耳が聞こえなくなり慌てて近所の耳鼻科を受診、多分ストレスが原因の1つだろうと言われ、大きな穴が開いた鼓膜の治療をして貰いました。ところが、最初は「急性期が過ぎたら大きな病院を紹介します」と言われたのに、最後は「風邪を引かないようにネ」で治療が終わりました。

ここで私は決断。地域のお医者さまは私の年齢から、もう難聴でも仕方がないヒトと判断されたようだから、「まだ諦めていない」ことを分かってもらうために、毎回お洒落をして小川町の耳鼻科専門病院を受診しました。暫くは鼓膜に紙を貼って再生を促す治療を受けましたが効果がないと分かったら、再生手術を薦めてくれました。「バンザイ!」。

お医者様もヒトの子、見てくれも大事です。精一杯若作りをして

「まだ人生を諦めていないアピール」をすることをお勧めします。

でもまた3月の末に入院するので、今度こそはクラブの皆様にご迷惑をかけないよういたします。よろしく願いいたします。

編集後記

ブリテンの発行が遅れましたことをお詫びします。

原稿を寄せてくださった方に感謝します。

「随想」と称するメンバーの記事の執筆者が若干偏ってしまいました。「楽しかったこと、嬉しかったこと、感動したこと」「旅行記」「自作の俳句、短歌、川柳、絵画、写真」等々を600～800字分くらいに纏めて投稿していただくと思いのほどではないかと思うのですが。

向寒の折、皆様ご自愛くださいますように。(SK)

